



住宅リフォーム推進協議会会長賞

講評： 郊外の住宅地に建つ築後20年の戸建住宅の増改築である。購入当初は施主夫妻に永住の希望がなく、20年間一度も手を入れたことがなかったそうだが、子供達の教育期間が終わったことを契機に、終の棲家とすることを決意し、全面的なリフォームとなった。

特筆すべき点は、斜めの軸線を導入したリビングダイニングの増築部分である。この住宅はツーバイフォー工法で建設されているが、壁を撤去せずに、既存開口部を利用した小規模な増築だけで、空間の広がりを得ることに成功している。

施主夫妻は、特に狭く感じるリビングダイニングを広げたいという希望が強かったようだが、夫人はガーデニングが趣味でもあり、庭をなるべく残したいという思いもあった。対象住宅のある「柏ビレジ」には、建築協定と緑化協定があり、町の環境と景観を維持している。街区ごとに定められたシンボルツリーは各住宅の敷地内にあり、それを維持管理することは居住者の務めでもある。このような条件下で、斜めの軸線を導入した増築は非常に功を奏している。新築当初からダイニングの側面にあった出窓の形状に合わせたそうだが、増築部分を三角形にしたことで、開口部をより大きくすることが可能となった。さらに2つの増築部分をつなぐ大きなテラスが、リビングを延長する空間になって視界全体に奥行きを生み出している。

キッチンに連続するダイニングテーブルも斜めに設置することで、対面式のようなコミュニケーション効果を実現している。計画当初は、対面式のキッチン希望していた夫人も、リフォーム後は、ご主人が洗い物を手伝ったりお嬢さん方と一緒に調理したりする機会が増えたと満足しているとのことである。

インテリアのリフォームにおいて、特に目立った特徴はないが、それぞれの空間に十分な造り付け収納を確保していることで、全体がすっきり見える。リビングダイニングと和室の境界壁を移動させた結果、和室は畳部分が6畳大から4.5畳大になったが、収納スペースの上下に隙間を空けているので、狭さを感じさせない。細かいところまで施主の意を汲んだ丁寧な計画で、住宅リフォーム推進協議会会長賞にふさわしい作品と評価できる。



リフォーム前後の写真



視線を拓げる斜めの増築で
リビングを拡張。
最小限の増築で
最大限の空間的広がりが生まれた。



①増築部に配した斜めのサッシ窓で部屋の奥行きや広がりが生まれたリビング。直角に増築するよりもかえって広く感じるようになった。



②閉鎖的なキッチンが明るく開放的になった。



③キッチンからカウンターを伸ばしたような形のダイニングテーブルで、キッチンがカウンターキッチンのように使えるようになった。



⑤和室もモダンで明るい空間になった。



④わずかな増築で、リビング空間が思った以上に広がった。

リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想 など

《リフォームの動機・要望》

1. 新築から20年、一度も住まいに手を入れたことがなかった
ので、狭く感じていたLDを拓げるリフォームをしたい。
2. キッチンが独立型からカウンターキッチンにしたい。
3. リビング横の和室をモダンな空間にしたい。

《リフォームのポイント》

1. LDKを広くするため増築を希望されたが、予算面から、コスト
を抑えられるよう大掛かりにならない増築を検討。リビング・
ダイニングをそれぞれ斜めに増築することで、リビングの入り

- 口から入ったときに感じる奥行きや広がり感を演出した。その
結果、増築面積に比べてかなり広く感じる空間となった。
2. 2×4構造のため壁の撤去ができず、奥様ご希望のカウン
ターキッチンではできなかったが、できるだけカウンターキッチン
風に見えるよう、LDと一体空間に見えるキッチンを工夫した。
斜めの増築に合わせて、ダイニングテーブルを斜めの形で特
注し、キッチンとつなげて一体感を出した。
3. 和室は、畳を縁なしの半畳とし、吊り押入れと床の間に
設けて照明を組み込み、モダンな雰囲気を演出した。

特に配慮した住宅性能：

データ

所在地	千葉県柏市	構造/築後年数	ツーバイフォー 造/ 20 年
該当工事面積	46.12 m ²	該当部分工事費	670 万円
居住者構成	4 人 (大人 <15歳以上)	4 人 子供	人 ペット
設計者	(株) 東急アメックス	担当者	豊田 国男・浜松 広子
施工者	同上	担当者	

リフォーム前

リフォーム後

